第８９号
２０１７年４月

風

発　行
群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町３－１９－３
『風』はホームページでもご覧いただけます
http://gunma.kenren-coop.jp/
Eメール:mail@gunma.kenren-coop.jp

会員生協との懇談会第1回目を開催　11月9日(木)

利根保健生協を訪問し、施設見学と懇談会を行いました

女性協 2016 年度活動方針で会員生協の男女共同参画の取り組みを広げ発展させるために「会員生協訪問を行い交流をする」事を提起しました。第１回は地域に根差した活動をされている利根保健生協さんに伺い、施設見学と懇談会を開催しました。ご多忙の中、原田専務さんをはじめ、役職員９名の方が出席して下さいました。

懇談会では、プラチナくるみんの取得を目指している事や、育児休暇を取得された男性職員の方、組合員活動についてなど、５名の方からお話しを伺い意見交換しました。懇談会で得たことを共有し今後の活動に活かしていきます。利根保健生協の皆様、ありがとうございました。（会長　松本勉枝）

今年は「女性協」に縁がありまして総会に出席させてもらいました。また毎月の理事会では「女性協」の機関紙等を拝見させてもらっていたり、その活動を垣間みておりました。

今回、女性協の役員との懇談会では、活動の内容をさらに知ることができました。いろいろな場所で活躍されている知人にも出会い、心強く、そして頼もしく思いました。男女に関わらず、誰もが憲法に保障されている職場・世の中になって欲しいです。

かつて女性に参政権がなかった時代、参政権を求める署名活動をしていた人たちが警察に捕えられました。多くの先輩たちが血を流すような活動や、近所や地域での支え合いから、私たちの「今」があると思います。女性協のお仕事も未来へ引き継ぐ大切なバトンと感じました。

利根保健生協理事　田村照代さん

利根保健生活協同組合　利根中央病院訪問
～地域を守り地域の人の健康を守る～

病院内は明るく開放的で防災拠点病院として機能的に設計されていました。女性が 51%と多い職場であり、出産後も働き続けられるように敷地内に 2 歳まで預けられる保育園がありました。平成 24 年にワークライフバランス推進委員会を立ち上げ「従業員の子育てサポート企業（愛称:くるみん）」の認定を受けたそうです。実際に男性で育児休暇を取得された方からも貴重なお話を聞くことができました。

医療を通じた地域づくりや子育て支援の充実は、高齢者だけでなくこの地域に生まれた子供の未来へと繋がっていく活動であると感じました。

（パルシステム群馬 運営委員 柳井由香里）

お詫び:前号「風」88号の「新潟県山古志地区を訪ねて」と題するはるな生協藤井洋子さんの手記の文中、「標高3千メートル」とあるのは、「標高3百メートル」の誤りでした。編集のときの誤入力が原因です。お詫びして訂正いたします。

2016年度第２回中央地連男女共同参画懇談会へ運営委員４名が参加しました
2月１日(水)「多様な生きかたと多様な働きかたを考える」

しんぐるまざあず･ふぉーらむ
理事長　赤石 千衣子 さん

２月１日（水）主婦会館プラザエフ（東京四ツ谷）において、日本生協連中央地連主催の 2016 年度第２回男女共同参画懇談会が開かれ、「多様な生きかたと多様な働きかたを考える」をテーマに 48 名の方々と交流を行いました。県連女性協から松本会長、藤原副会長、甫仮の３名が、コープぐんまから女屋委員が参加し、県連女性協議会運営委員の４名が参加しました。

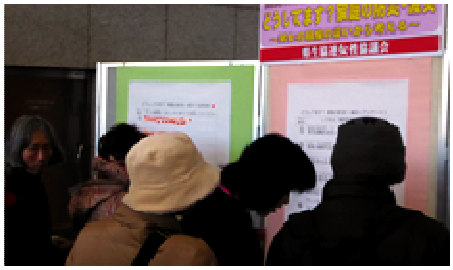
今回は特定非営利法人しんぐるまざーず・ふぉーらむ理事長赤石千衣子さんの「ひとり親家庭の現状と支援」の学習講演でした。日本のひとり親の貧困率はＯＥＣＤで最悪です。最新の国民基礎調査では貧困率 54.6%、養育費の受取率は２割、女性の賃金が低く年収 300 万円以下が３人に１人が現状です。

続いて、一人ひとりが「自分らしく多様な生きかた、多様な働きかたが選択できるようになるために、私たちはどんなことができるか」たとえば「個人として」「生協として」「事業や活動で」との話し合いをもとにグループワークで交流しました。男女共同参画の学習、交流に取り組み推進していかなければと痛切に感じ大変有意義な懇談会でした。

（群馬中央医療生協 運営委員 甫仮文子）

2017年消費者まつりに参加!! 2月１２日(日)
～家庭の防災･減災を来場者からアンケート調査～

今年の消費者まつりは「みんなでつくろう消費者市民社会～ともにかしこい消費者として～」をスローガンにして開催されました。県庁内の県民ホールに県民 2,000 人の参加があり、買い物やイベントを楽しみました。


「防災・減災アンケート」シール投票のようす

女性協の今年のテーマは「どうしてますか？家庭の防災・減災～男女の目線の違いから考える～」として、参加者の方に９項目のシールアンケートを行ったり、写真パネルで活動の紹介を行いました。昨年、女性協で新潟県山古志地区への視察見学からつながって今回のテーマとしました。

回答者総数１７３名（女性１２７名、男性４６名）。全体の回答率として、飲料・食料の備蓄、家族の連絡方法などは女性、家具の転倒防止、防災訓練への参加は男性の関心が高いことがわかりました。また、ラジオや電池の準備はされていて、衛生用品の準備はまだまだ意識がうすいと感じました。

県発行の防災ハンドブックもお渡ししたので、少しでも防災準備に関心を持っていただけたようでした。　防災・減災は男女の役割があるとともに、ふだんから備える意識はみんなで持ってほしいと感じました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

（はるな生協 運営委員 吉田寿美子）

防災・減災を考える～いざという時にあわてない～ 2月22日(水)
ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）研修会を開催しました

講師 赤羽潤子先生

県連女性協議会は、群馬県ぐんま男女共同参画センターとの共催で、2月22日（水）に群馬県勤労福祉センターにおいて「防災・減災を考える～いざという時にあわてない～『ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）』研修会を開催しました。この研修会は、緊急時の避難所運営には女性の役割発揮が大切との考えから開催されたものです。研修には、3名の男性を含め、7会員生協･事務局から28名が参加しました。

参加者は6つのグループに分かれ、避難所とした高崎市寺尾小学校の校舎と校庭に見立てた模造紙の上に、避難してくる住民一人ひとりに見立てたカードをどのスペースに割り振っていくかを考えながら、次々に発生する問題に対応していくという避難所運営の疑似体験のゲームにとりくみました。

参加して感じたのは、先ず「忙しい」という事でした。避難所運営には「災害弱者（病気･怪我･個人別課題）、施設･設備･スペース問題、メンタルへの配慮、ひいてはペットの管理、マスコミ対応までも考慮する必要がある、尚且つ迅速に」、これだけでもはるかに想像を超えており、災害に備えるには「たすけあい」の気持ちと日頃からの地域コミュニティー構築、それと同等に事前準備（シミュレーション）が不可欠であることを「楽しく」学ばせて頂き、とても有意義な研修だったと感じています。

パルシステム群馬　光山徹さん

この研修会の様子は、日本生協連海外向け英語版のニュース「JCCNews」2017年2月号でも紹介されました。

Gunma Prefecture Consumers Co-operative Union holds workshop

The Women Association of Gunma Prefecture Consumers Co-operative Union held a disaster prevention and impairment workshop jointly with Gunma Gender Equality Center on February 22.

The workshop was held to stress the recognition of the importance of women's role in managing evacuation shelters during emergencies. Twenty-eight people from 7 member co-ops including three males participated in the workshop.

Professor AKABANE Junko one of the lecturers mentioned that in the case that a shelter is opened, the principle behind it must be " Publicly-owned "and that the evacuation centers must be managed by the citizens.

「HUG研修会に参加して」

「○地区の□さん 45歳 奥さんと子ども2人」「△地区の老夫婦 82歳と78歳」「ブラジル人の○○さん」「バスツアー中の被災者 45人入ります」「トイレが詰まった」「ペット犬を連れて来た」……矢継ぎ早に繰り出されるカードを、充分に考える時間もなく避難所図の中に置いていかねばなりません。

いつ終わるのかと思うほどの、苦しい作業となりました。

グループの皆で「この人は出入り口の側がいいね」「病気の人はまとめてこの部屋ね」等など判断してカードを処理して行きますが、それが正しいのかどうかも全く分かりません。

実は、参加するまで、避難所運営のイロハを教えて貰えるワークショップだとばかり思っていましたが、甘かった！正解はない、自分で考えるのだと言われました。

とにかく分かったのは、待ったナシの避難所運営の厳しさと、互いに協力し合う事の重要性です。有事の際には人任せにせず、自分がお客さんにならず、動ける者は積極的に動いて助け合うことだ、と痛感しました。

（生活クラブ生協　運営委員　木村香織）

共同参画の取組み紹介

各生協から寄せていただいた原稿をそのまま掲載しています。

北毛保健生協

多世代交流と男女共同参画で目指す、ゆたかな地域社会の実現を！

こども班会の取り組みからのヒント！

北毛保健生協では、2016 年度 4 つの支部でこども班会を開催しました。目的は組合員の世代間交流の必要性からでした。しかし実際の取り組みにおいて多くの気付きを得ることができました。

班会の企画や運営や達成感のすべてにおいて、成功のカギとなるのは、母親たちの発想と地域に張り巡らされているネットワークです。生協の班の仕組みで、地域の子供をとりまくコミュニティー強化ができれば、世代をこえた組合員同士の共同参画社会に発展していくと実感しています。

これからも安心して住みつづけられるまちづくりを目指して。

群馬県生協連女性協議会主催

お知らせ　申込みが必要　定員50名　無料

会員生協活動交流会

テーマ：暮らしやすい地域づくりのために今生協のできること

5 月 19 日（金） 午前 10 時 30 分～午後２時３０分

会場　群馬県生涯学習センター　４階第１研修室

基調講演・群馬県の男女共同参画の取り組みについて（ぐんま男女共同参画センター所長）
活動報告・事例発表　生活クラブ生協／利根保健生協／北毛保健生協
基調講演、活動報告のあと、参加者によるグループワークを実施します。
※　参加無料･昼食（お弁当）付、筆記用具をご持参ください。
　お申込みは、5 月11日（木）までに各生協または女性協運営委員まで。

昨年の交流会のようす

群馬県生協連女性協議会　議題：2016 年度のまとめと 2017 年度方針案について他

第 24 回定期総会開催のご案内

日時　2017 年 6 月 20 日（火）10:00～12:00

会場　群馬県生涯学習センター　1 階　多目的ホール

前橋市文京町 2-20-22（TEL027-224-5700）

※　第二部のアトラクションでは、群馬県内で活動するピアノ演奏者大久保伊津美（おおくぼ いつみ）さんの演奏をお聞きいただく予定です。なお、今回はお弁当の配布はありません。